

「はじめ」

記念すべき初版のテーマは「一（はじめ）」です。

第一回ということで、せめて初々しくお届け出来れば幸いと思い、テーマを厳選致しました。

「稽古とは、十にならつて二を知り、十からかえる、もとのその一」は千利休。

茶人「一期一会」。職人「意専心」。音「一音成仏」。言葉「一言一句」。

森羅万象。一に始まったことが、必ず一に還ってゆきます。

メルマガ『noichi』第一号。「一」と書いて「はじめ」と致します。

「一（はじめ）」から

時は大正2年。長野県、善光寺大本願境内に於て、草木が朝露に濡れる閑けさにあつて泰然と構えている大本願・智栄上人。その御前に、覚悟を決めた一人の青年が座つた。

「御上人様。手前は、箏人として世に箏曲を広めるべく、ここに一派を開軒し、来世に亘つて国恩に報ずる決意にあります。御鞭撻を賜りたく、謹んでお願いを申し上げます。」

「貴殿の決心を、快く見届けよう。心掛け正しく、一派を築きなさい。名を『正派』とするが善ろしい。」

「勿体ないこと。心掛け正しく邁進致します。」

青年は携えた箏に美しい所作で柱を並べ掛け、最初で最後となる秘曲中の秘曲を奏し、一光三尊阿弥陀如来の御前に固く誓いを立てた。

大正、昭和、平成と激動の時代を経て、一から積み上げてきた精神理念の石垣は、やがて一大会派を築き上げ、青年の志は間もなく、創始100年の大きな節目を迎える。

その志が、新時代、新世代へ受け継がれようとしている今、我々は来たるべきその時を、一（はじめ）に返つて迎えるのである。

奥田雅榮之一

6月・7月の演奏会情報

6月 24日 サラウンド・スケープ [Southern Island] with 奥田敦也 ※

7月 15日 正派音楽院院内勉強会 p: 正派邦楽会館ホール o:13:00 t:free
30日 劇団TNB ライブ p:Studio K o:19:00 t:2,000yen
30日 子供奨励会 p: 正派邦楽会館ホール o:10:00 t:free

p=会場 o=開演 t=チケット値段

* 演奏会情報の掲載御希望、チケットお問い合わせは
mailmagazine@utanoichi.jp まで!

※今月のイチ押し

雅楽之一の父で法竹演奏家の奥田敦也の9年振りとなる東京ライブ。今回は(株)クリプトンから7月に配信されるサラウンド・スケープ第3弾を生で体験するもの(HQM STORE <http://www.hqm-store.com/>)。サラウンド・デザイナー沢口真生氏との共演で、新しい可能性が見出されるか、期待されます!

日時: 6月24日(金) 19:30- / 21:00- 2ステージ

場所: UNAMAS ミュージック チャージ¥3,000

お申し込み: http://pioneer-ginza.jp/event_report/2011/06/630-38av.html

JR 三鷹北口下車、三鷹中央通り、徒歩5分 武蔵野市中町1-10-6 三鷹北口共同ビル 2F TEL:0422-36-6252 (ご予約・お問い合わせ)

★メルマガ編集部にお問い合わせ頂いた方先着2名様、1000円引きとさせていただきます!

私のはじめ

ジュエリーデザイナー 山本亜由美 (<http://www.murderpollen.jp>)

30代を半ばになったある日、私は三味線を習い始めました。琵琶や尺八、三味線を弾いてみたいわ。と小さな頃から思っていました。あるとき、たまたま自分の仕事のホームページを作ってくださいる方が、奥田雅楽之一さん(先生)のホームページも作っていたので、紹介いただき習う事に。楽器は小学校のピアノカトリコーダー以来。完全なる素人の、「三味線のはじめ」です。

習い始めて知ったのは、邦楽の世界が細分化されている事。長唄、地歌、義太夫と沢山、沢山、流派も沢山、沢山。でも基本的に、浮気をしてはいけないらしい。

とりあえず、習い始めて約一年半。耳が邦楽に慣れてくると、見えてくる世界も違って来た。文楽や歌舞伎、映画音楽。文学。もつと知識の幅を広げなくては！(でも、私の欲しい古い音源は廃盤ばかりで手に入らないのが困る。)

見る事、聞く事では浮気しているけれど、たまーに休みつつも地歌一筋です。

スカツといつも撥を空振りしてしまうけど、テンポも未だにつかめないけど、唄う事に照れちゃうけれど、気付くとちよつとずつ出来る事が増えている。私には楽しく、楽しく、正座で足が痺れなければずっと弾いていきたいくらい、楽しんでます。

どんなに長い本も「完」の文字とともに楽しみが終わってしまいますが、「音楽」ってきつと答えがないから、悩む事も挑む事も、努力する楽しみがずっと続くから嬉しい。物を作る仕事をつづけて約12年。作品にも正解がありません。仕事と私生活の区別もなく、日々感じる事、見聞きする事が作る事に繋がっています。

たった12年でも、12年経ったからこそ作れる物があるという知りました。変化して、変化して、傍目には良くなったり

悪くなったり。私の三味線の音もきつと10年後位に、なにか感じられると良いのですが。とりあえずは、羞恥心を飛び越えられるようもつと練習したいと思います。



TNBのそれっぽい話

三味線演奏家 田辺 明

日常生活において何の気なしに聞こえてくる音や音楽に気を留めてみると、音楽的・楽典的にさまざまな発見があったり(なかつたり)する。

今回は「はじめ」をテーマにということで、「はじめ」をGoogleで検索して(ググって)みると、「はじめのチュウ」が出てきた。キテレツ大百科というアニメで使われていた曲である。その曲の1番の特徴は、「あんしんパパ」という歌手の何とも機械的だが高音の可愛らしい声である。これはボイスチェンジャーなどの機器を使わずに、録音の際にアナログテープで倍遅く且つ1オクターブ低く録音して、通常再生するとあの可愛らしい声になるそうだ。

これは、周波数や振動数の関係から2倍速く再生すると倍音列の・・・(難しいので以下略)。

ということではサビの、

♪ はじめてのチュウ 君とチュウ(フフフ)

の「フフフ」の微笑み声の部分はドスのきいた声で、

♪ フフフフフ

とても収録したのだろうか・・・。

邦楽英単語講座・その一…こじは英語の bridge と言います。ヴァイオリンの駒 (bridge) と同じです。

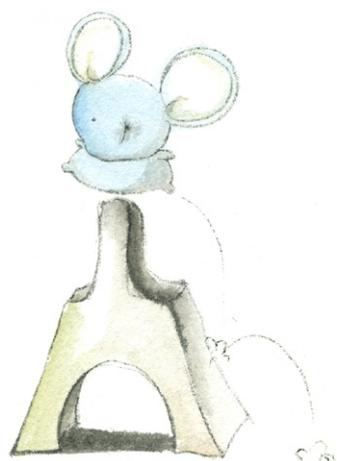


Illustration : urara okuda

◎あとかぎ◎

新しいことを始めるには、それなりの勢いと体力が必要だ。しかし続けるのはもつと難しい。

器用な人は最初から何でも無難にこなすけれど、すぐに飽きてしまつて続かないと言われる。一方、不器用な人は続けるかどうかなどと考えもしない。ただひたすらに一つの事に打ち込む人が多い。その結果、いつの間にか周囲が驚くほどの高みに達している。器用でしかも一心不乱に続けられる人はなかなかいない。続けられる人は「続ける才能」をもっているのか。それとも「やめない才能」があるのか。何事も十年続けたら一人前、と語っていたのは吉本隆明氏。始めたらとりあえず走り続けてみる。立ち止まって考えるのは後でいい。飽きっぽい人でも十年続けてみる。知らないうちにやめない才能が身につく。その先には見たことのない景色が広がっているはずだ。

グラフィックデザイナー (<http://www.1938.jp>) みやはらたかお